

# 研究の概要

## 1 研究主題

自ら考え、楽しく学び合う子供の育成 — かかわり合い、高め合う支援の在り方 —
--

## 2 研究主題解明の仮説

仮説 興味・関心を喚起する教材提示を工夫することで、意欲的に学習を進め、学ぶ楽しさを味わうことができる。

仮説 かかわり合いが生まれる学習過程や、子供の実態に応じた支援を工夫することで、自他のよさを認め合い、高め合っていくことができる。

## 3 研究内容

### (1) 追究意欲を高める教材提示

- ・ 子供の実態に即し、多様な方法でかかわることができる教材の工夫
- ・ かかわり合いや知的好奇心が喚起され、自発的な学習を促す教材の工夫
- ・ 学習意欲を喚起し、見方・考え方などを広げる教材提示の工夫

### (2) 友達とのかかわりの中で、考えを深めたり高めたりする工夫

- ・ 子供の思考過程やつまずき、抵抗感、発展性を予測した単元構想
- ・ 一人一人が自分の考えをもつための個に応じた支援の工夫
- ・ 一人一人のよさが発揮できる場の工夫
- ・ ねらいに沿って子供同士のかかわり合いが増える学習展開の工夫

### (3) 指導体制の工夫

- ・ 学習内容やねらいに合った学習形態の工夫
- ・ それぞれの役割を生かしたT T指導の工夫

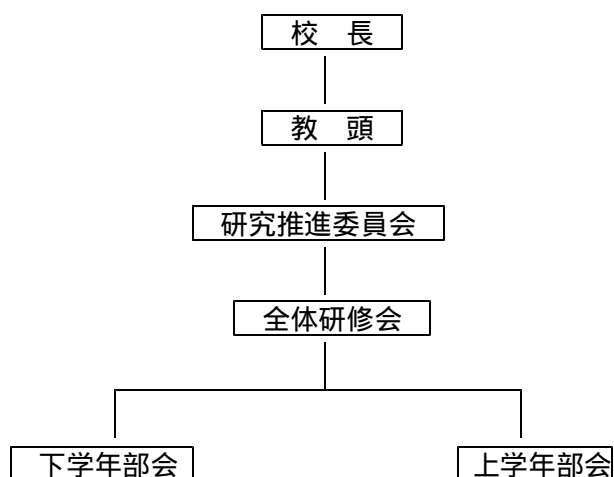
### (4) 評価を生かした指導の改善

- ・ 自分や友達のよさに気づき、意欲を高める自己評価、相互評価
- ・ 子供に付けたい力を明確にし、次の学習につながる評価

## 4 研究方法

- ・ 研究主題や研究内容について全職員で共通理解を図り、研究計画に基づいて継続的に研究を進める。
- ・ 上・下学年部会を組織し、授業実践を通して研究を深め、主題解明に当たる。
- ・ 先進校の参観やその報告会などを通して視野を広める。

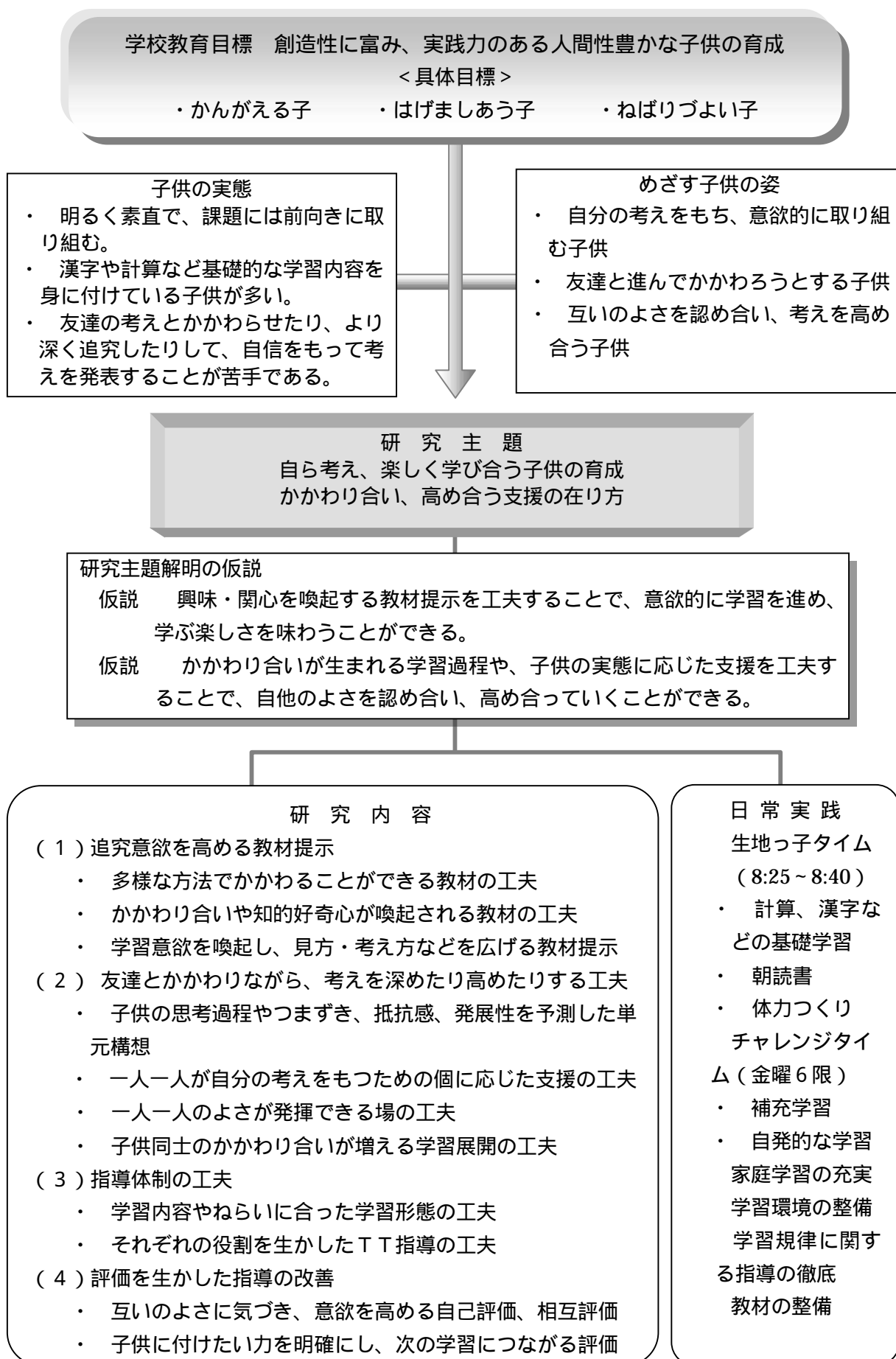
## 5 研究組織



## 6 研究経過

月	研究の概要	その他の研修
4月	研究主題及び仮説の設定 研究内容の検討と共通理解 部会の組織づくり	
5月	内容の具体化と研究計画の作成 訪問研修に向けての共通理解	
6月	学校訪問研修会	
7月	学校訪問研修会及び1学期の研究の反省	
8月	第1回小学校外国語活動校内研修会 第2回小学校外国語活動校内研修会	情報教育研修会
9月	2学期の研究計画	
10月	事前研究下学年部会(2年 国語) 研究授業事後研究会(2年 国語)	
11月		学力向上推進委員会 (全国学力・学習状況調査の分析)
12月	2学期の研究の反省	生徒指導研修会
1月	事前研究上学年部会(4年 国語) 研究授業事後研究会(4年 国語) 全国学力・学習状況調査の本校の傾向と対策 (全体研修会)	学力向上推進委員会 (学力向上について) 情報教育研修会
2月	第3回小学校外国語活動校内研修会 本年度の研究の反省と次年度の課題	
3月	次年度の研究計画の検討(研究部会)	特別支援研修会

## 7 研究の全体構想



## 8 実践事例

### 実践事例 1

### 第 2 学年 国語科

児童数 男子 16 名、女子 5 名、計 21 名  
指導者 担任 三谷朝子

1 単元名 ようすを考えて読もう 「お手紙」

2 単元について

本単元では、場面の様子や登場人物の気持ちを想像したり、音読を楽しんだりすることをねらいとする。この物語は、がまくんとかえるくんの心のふれ合いを描いたものである。友達の悲しみを思い、さりげない優しさで喜ばせようとする温かい友情が主題であり、子供たちは共感しながら読み進めることができるだろう。また、本文は会話文が多く、役割読みなどの音読を通して、登場人物のやり取りを楽しむのに適している。

子供たちは比較的読書が好きで、図鑑やクイズ形式の本だけでなく、挿絵の多い易しい読み物に慣れつつある。1学期に「ふきのとう」で、音読や動作化を工夫しながら学習を進めてきた。また、「スイミー」では、場面ごとのスイミーの様子や気持ちを吹き出しに書いて想像を広げて読んできた。しかし、叙述に着目して根拠を明らかにして考えたり話したりすることはまだ難しいようであった。話し合いでは、進んで発表したり友達の意見につなげて話したりすることが、少しずつ増えてきている。反面、自分の考えをなかなか言葉に表せない子供もおり、発言意欲に差がある。

本単元では、友達とかかわり合って学習するよさや楽しさを感じられる場を工夫したい。話し合いの前に、2年生なりに主体的に文章や挿絵と向き合うことができるように、ワークシートを利用した書き込みを行い、必要に応じて個別に支援していきたい。その際、考えの基となる叙述や挿絵を意識させるようにし、話し合いで取り上げるようにしたい。

3 研究主題との関連

自ら考え、楽しく学び合う子供の育成  
- かかわり合い、高め合う支援の在り方 -

(1) 仮説 1 とのかかわり

仮説 1 興味・関心を喚起する教材提示を工夫することで、意欲的に学習を進め、学ぶ楽しさを味わうことができる。

- ・ 題名「お手紙」から、手紙に関する自分の経験を想起し、本文への興味・関心を膨らませる。
- ・ 挿絵を手がかりにして、どの子供も場面をとらえられるようにする。
- ・ 登場人物の追体験ができるように、他の活動の中で友達と手紙（メッセージカード）のやり取りを行う。（\* 道徳、学級活動などとの関連を図る。）

(2) 仮説 2 とのかかわり

仮説 2 かかわり合いが生まれる学習過程や子供の実態に応じた支援を工夫することで、自他のよさを認め合い、高め合っていくことができる。

- ・ 誰の会話文かが分かるように、本文に印をつける。
- ・ 文章と挿絵、吹き出しを盛り込んだワークシートを利用して、場面ごとに一人学習を行う。その際、どの子供も自分の考えをもつことができるように、教師の朱書きや対話に重点をおく。
- ・ 話し合いを焦点化するための切り返し（「どうして?」「どこからそう思ったの?」など）を発言者以外にも投げかけ、かかわりが生まれるようにする。
- ・ 役割読みを取り入れる。友達の音読の仕方との違いを意識することで、友達と学習する楽しさを感じられるようにする。

4 単元の目標

- ・ 場面の様子や登場人物の気持ちについて、叙述をもとに想像を広げながら読み取ることができる。

- 5 全体計画(全18時間 本時 11/18時)
- 1次 題名を読み、手紙を書いたりもらったりした経験を話し合う。本文を読んで、感想を發表し合い、読みのめあてをもつ。 . . . 3時間
  - 2次 場面ごとに様子や気持ちを読み取る。 . . . 10時間(本時8/10時)
  - 3次 音読発表会をしたり登場人物に手紙を書いたりして、学習のまとめをする。 2時間
  - 4次 主語と述語の関係や、新出漢字・言葉の学習をする . . . 2時間
  - 5次 アーノルド=ノーベルの他の作品を聞いたり読んだりする。 . . . 1時間、課外

6 本時の学習(11/18時)

(1) ねらい かえるくんとがまくんの会話文を中心に、二人の気持ちを想像して読み取ったり、音読したりすることができる。

(2) 展開

学 習 活 動	支 援 評 価
<p>1 前時の学習を振り返り、本時の学習の目当てを確認する。(2分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>かえるくんとがまくんの気持ちを考えて読もう。 (第4場面 お昼ねをしているがまくんとお手紙をまっているかえるくん)</p> </div>	<p>前時までの学習を想起できるように資料を掲示しておく。</p>
<p>2 本時の学習場面を音読する。(5分)</p>	<p>一斉読みの後、役割読みを行い、だれが言った会話文か、はっきり分かるようにする。</p>
<p>3 かえるくんとがまくんの様子や気持ちを話し合う。(20分)</p> <p><b>がまくん</b> 「ばからしいこと、言うなよ。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ お手紙を待っていてもどうせ来ないよ。</li> <li>・ もう、お手紙を待つのはいやだ。</li> <li>・ かえるくんは窓の外を見て、何をしているのかな。</li> </ul> <p><b>かえるくん</b> 「だって、ぼくが、きみに...」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ がまくんがお手紙を待つのをやめてしまったらたいへんだ。</li> <li>・ かたつむりくんを待って、外をのぞいていたよ。</li> <li>・ もう待ちきれないよ。早く言いたい。</li> <li>・ がまくんを元気にしたいな。</li> <li>・ がまくんを喜ばせたいな。</li> </ul> <p><b>がまくん</b> 「きみが。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ かえるくんがお手紙を出してくれたなんて、びっくりした。</li> <li>・ うれしい。楽しみだな。</li> <li>・ なんて書いてあるのかな。</li> </ul>	<p>自分が手紙を書いたことをがまくんにどうして教えてしまったのかなど、はじめの感想や一人学習での疑問を紹介し、それに対する考えを出し合うことで、かえるくんの心の変化に気付くようにする</p> <p>二人の気持ちの変化を、言葉だけでなく顔マークで表し、視覚でもとらえられるようにする。</p> <p>「のぞきました」を動作化し、「見ました」との違いを考えるようにする</p> <p>「だって、ぼくが...」(かえるくん)、「きみが。」(がまくん)など、気持ちが表れやすい会話文に焦点を当てて音読につなげるようにする。</p>
<p>4 本時の学習場面のかえるくんやがまくんの様子が表れるように音読の仕方を工夫し、聞き合う。(10分)</p>	<p>友だちの音読の仕方のよさや工夫を見つけ合うようにする。</p>
<p>5 本時の学習を振り返り、付け加えカードを書いてワークシートに貼る。(8分)</p>	<p><b>読</b> 自分の考えを發表したり、友達の考えを聞いたりしながら、叙述から想像を広げて読んでいる。 (音読・発言・表情)</p> <p>なかなか書けない子どもには、板書を手がかりにするように声をかける。</p>

\* 評価規準

(1) 題材の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く 能力	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>場面の様子を想像しながら、楽しんで読もうとしている。</li> <li>登場人物になりきって音読しようとしている。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>粗筋をつかみ、叙述をもとに、登場人物の様子や気持ちについて想像を広げながら読んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主語と述語の関係に注意して読んだり書いたりする。</li> </ul>

(2) 学習場面における具体的評価規準

時	主な学習活動	関 意 態	話 す 聞 く	書 く 能 力	読 む 能 力	知 理 技	評価規準
	<ul style="list-style-type: none"> <li>題名を読み、今まで手紙を書いたりもらったりした経験を話し合う。</li> <li>誰の会話文であるかをはっきりさせて全文を読み、簡単な感想を書く。</li> <li>感想を出し合い、読みのめあてをもつ。</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>手紙について関心をもって考えたり発表したりしている。 (発言・つぶやき)</li> <li>本文や登場人物に関心をもって楽しく読もうとしている。 (音読・つぶやき・ワークシート)</li> <li>思ったことや不思議なことを発表したり聞いたりしている。 (発言・表情)</li> </ul>
(本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>一の場面の一人学習を行い音読の仕方や想像したことをワークシートに書き込む。</li> <li>一の場面の話し合いを行い手紙をもらえないがまくんの気持ちを読み取る。</li> <li>二の場面の一人学習を行う。</li> <li>二の場面の話し合いを行いかえるくんの行動や気持ちを読み取る。</li> <li>三の場面の一人学習を行う</li> <li>三の場面の話し合いを行いまくんとかえるくんの行動や気持ちを比べながら読み取る。</li> <li>四の場面の一人学習を行う。</li> <li>四の場面の話し合いを行いまくんとかえるくんの行動や気持ちの変化を読み取る。</li> <li>五の場面の一人学習を行う。</li> <li>五の場面の話し合いを行い二人の手紙を待つ気持ちを読み取る。</li> </ul>						<p>一人学習 時</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>順序に従って内容を理解し、場面ごとの様子や登場人物の気持ちを想像しながら、音読したり考えを書き込んだりしている。 (音読・ワークシート)</li> </ul> <p>話し合い 時</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりしながら、叙述から想像を広げて読んでいる。 (音読・発言・表情)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>音読発表会をする。</li> <li>読み取ったことを思い出しながら登場人物に手紙を書く。</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物になりきって音読している。 (音読)</li> <li>登場人物の気持ちを考え、自分の思いを手紙に書いている。 (手紙)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>主語と述語を理解する。</li> <li>新出漢字や言葉の学習をする。</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>主語と述語に気をつけて文を書いている。 (ワークシート)</li> <li>新出の漢字や言葉を正しく書いたり使ったりしている。 (ノート)</li> </ul>
課外	<ul style="list-style-type: none"> <li>アーノルド＝ノーベルの他の作品を聞いたり読んだりする。</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>「お手紙」と同じ作者の物語に興味をもって聞いたり読んだりしている。 (行動・つぶやき)</li> </ul>

## 7 事後研修会で話し合われたこと

### (1) 成果(仮説2について)

- 一人読みで登場人物の気持ちを考える際に、ワークシートに次の3つの表現方法を取り入れたことにより、どの子供も楽しく読み進めることができた。

かえるくんとがまくんの色分けシールに描き込む顔マーク

本文の行間への書き込み(言葉の言い換え、自分の思ったことなど)

挿絵につけた吹き出し(登場人物になりきって)

特に、 は一人一人の考えの違いがはっきり分かり、低学年には有効な方法であった。

- 子供たちは、自分の考えをしっかりとっていたので、自信をもって話すことができた。「～さんに付け加えます。」という話し方を身につけることで、友達の意見をよく聞いて自分の考えと比べることができた。
- 話し合いの振り返りとして、付け加えカードをワークシートに貼るようにしたことは、新たな気づきを自覚するのに効果的だった。たくさんの付け加えカードを貼ろうと意欲を高めた子供も多かった。



本時の板書



付け加えカードを書く子供たち

### (2) 今後の課題(仮説2について)

- 意見を述べる際に、「さんと違って」などという話し方を取り入れれば、話し合いがさらに焦点化し、読みを深めることができた。
- 聞き方・話し方の指導を、学年の発達段階を考慮して系統的に行うようにしたい。

## 実践事例 2 第4学年 国語科

児童数 男子15名 女子17名 計32名  
指導者 担任 川口 絹代

- 1 単元名 よりよい意見にまとめよう 「話し合って決めよう」
- 2 単元について

4年生後半になると、自我意識の発達に伴って、子供たちの発言はクラスの友達の意向を意識したものが多くなる。自分の言葉が、周囲の級友にどう受け止められているかを意識して話すようになってくる。この時期になると、子供たちは意思決定を自分たちの力で行おうとする意識が芽生えてくる。逆にこの時期を待たずに意思決定の必要な場を与えても、自分の考えを主張するにとどまり、まとまりのある話し合いは難しいものである。本教材では、こうした発達段階を意識し、子供たちが協力し合って意思決定を図るための話し合いの仕方を学ぶことをねらいとしている。

子供たちは3年下「名前をつけよう」で、互いの共通点や相違点を明らかにして話し合う活動を行ってきた。4年上「『伝え合う』ということ」では、コミュニケーションとして言葉を使うことを意識的に学習している。しかし、学級活動の中で行われる話し合いでは、まだ自分の主張を繰り返し、相手の考えのよさを認めない場面もよく見られる。また、発言者にも偏りがあり、多数決などの意思決定には参加するが、自分の考えを発表できない子供も何人かいる。そして、話し合いを進行する係の仕事では、うまく進めることができないことが多い。

そこで本単元では、話し合いのモデルをロールプレイで繰り返し行うことで、話し合いの仕方の重要性とそのポイントについて意識させたい。また、実際に児童の関心のある話題をいくつか取り上げ、話し合いを行う場を設けることによって、進行係の進め方、意見の出し方について、どんなことに気をつける必要があるかを理解させたい。

- 3 研究主題との関連

自ら考え、楽しく学び合う子供の育成 かかわり合い、高め合う支援の在り方
--

- (1) 仮説 とのかかわり

興味・関心を喚起する教材提示を工夫することで、意欲的に学習を進め、学ぶ楽しさを味わうことができる。
---

### 【実現可能な話題で話し合い】

- ・ 特別活動とも関連を図り、実現可能で、興味関心があったり、必要感があったりする話題を取り上げ、話し合いを行う。内容としては、「雪遊びで作るかまくらはどんな形にしよう」「学級の係の仕事を決めよう」「学級のお楽しみ会のゲームを決めよう」「6年生を送る会で渡すプレゼントを決めよう」などを話題として、繰り返し話し合いを進め、それを基に実現していく。そのことにより、子供たちは、興味関心をもち、意欲的に学習に参加するのではないかと思われる。

### 【同じ少人数のグループでの話し合いを多用】

- ・ 1グループが5～6人のグループを作り、同じグループで何度も話し合いを行う。そうすることで、話しにくい子供も回を重ねるにつれて雰囲気慣れるだろう。また、話し方も分かり、話し合いに進んで参加するようになるのではないかとと思われる。また、振り返りを行うときに、前と比べてよくなったところを見つけ出し、自信をもつことができるのではないかと考える。

### (2) 仮説 とのかかわり

かかわり合いが生まれる学習過程や子どもの実態に応じた支援を工夫することで、自他のよさを認め合い、高め合っていくことができる。

### 【話し合いの形態の工夫】

- ・ まず、本文「話し合って決めよう」の学習では、4人の意見のよいところや直したらよいところを見つけ、伝え合う。次に、「雪遊びで作るかまくらはどんな形にしよう」「学級の係の仕事を決めよう」の話し合いでは、グループごとに話し合い、そのあと、全体で振り返りを行う。さらに、「学級のお楽しみ会のゲームを決めよう」「6年生を送る会で渡すプレゼントを決めよう」では、2グループごとにペアになり、それぞれの話し合いの様子を互見して、それぞれに振り返りの話し合いをもつ。そして、後者は、全体にかかわる内容であるので、グループごとに出された意見を基に全体での話し合いを行う。互いに見合ったり、振り返ったりすることを通して、それぞれががんばったことを認め合ったり、自分の話し合いの仕方を振り返ったりすることができると思う。そして、全体の話合いの中でも、賛成や反対の立場をはっきりさせたり、他の子供の意見に耳を傾けよりよい意見を提案したりすることができるのではないかとと思われる。

### 【学習カードの工夫】

- ・ 話し合いの前に学習カードを通して話題を知らせ、自分の考えとその理由を書く欄を設ける。そのことで、自分の考えをはっきりさせて話し合いに臨むことができると思う。また、賛成・反対の立場をはっきりさせる欄を設けたり、メモができる欄をもうけたりして、話し合いの途中でも、自分の考えを確かめられるようにする。そのことで、継続して、話し合いにかかわれるのではないかとと思われる。進行係には、2～3種類の段階を踏んだカードを用意し、個人にあったカードを用いて話し合いを進められるようにする。そのことで、自信をもって臨んだり、自分で判断して話し合いを進めることができると思う。

## 4 単元の目標

- ・ 合意点を見つけようとして発言し、話し合いによって物事を決める楽しさを知る。

## 5 単元構想(全6時間 本時 4/6時)

1次 教科書や付録CDを参考にして、よりよい意見にまとめるための話し合いの方法を理解することができる。 . . . 3時間

2次 よりよい意見にまとめるために、合意点を探りながら話し合いに参加することができる。 . . . 3時間

6 本時の学習（4 / 6 時）

（1）ねらい

よりよい意見にまとめるために、自分の考えを言ったり、賛成・反対の立場をはっきりさせたりしながら話し合いに参加することができる。

（2）展開

学 習 活 動	支 援 評 価
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">よりよい意見にまとめよう</div> <p>1 意見を出すときの注意点や進行係の注意点など、話し合いの目当てを確かめる。 （2分）</p> <p>2 話し合いを観察し合う。 （40分） 「お楽しみ会のゲームを決めよう」話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ わたしは、腕相撲大会をすればよいと思います。なぜなら、盛り上がると思うからです。</li> <li>・ わたしは、腕相撲大会に反対です。なぜなら、1度負けるともうすることがないからです。</li> <li>・ グループ対抗戦にして、何度も戦えるようにすれば、腕相撲大会ができると思います。</li> </ul> <p>振り返りの話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話し合いがそれたとき、進行係がそれをとめ、元に戻したのがよかったと思います。</li> <li>・ さんは、意見を言うとき、自分の体験を理由に挙げていたのがよかったです。</li> <li>・ わたしは賛成・反対の立場をはっきりさせて言えたのでよかったです。</li> <li>・ わたしは進行係だったけど、話がそれてなかなか元にもどらなかったの、進行が難しかったです。</li> </ul> <p>交代をして話し合いを行う 「6年生に贈るプレゼントを決めよう」</p> <p>3 学習の振り返りを行う。 （3分）</p>	<p>前時までに確認してきたことを、もう一度読み上げる。また、今日の話し合いは時間が決まっているので、途中で終わってもよいということを確認する。</p> <p>Aグループが13分の話し合いを行い、Bグループが観察する。その後、Bグループの進行で5分の振り返りの話し合いを行う。そして、立場を代えて、後半の話し合いと振り返りを行うようにする。</p> <p>前時に話し合いのテーマや役割を決め、自分の目当て、自分の考え、その理由を書き、それを基に発言できるようにする。進行係には、「話し合い進めカード」を選ばせ、自信をもって進められるようにする。</p> <p>話し合いの声が重ならないように2つの教室を使って話し合いを行うようにする。</p> <p>話し合いの進め方が、言い方など目当てからそれている場合は、その場で助言し、言い方の確認を行う。</p> <p>賛成や反対の意見を言う場面では、グループによっては、学習プリントに1度整理してから行うようにする。</p> <p>観察グループは話し合いを観察し、よかったところ、直したらよいところなどをメモしながら聞くようにする。</p> <p>話し合いが終わってしまったところは振り返りカードを書き、待つようにする。</p> <p>振り返りの話し合いでは、観察グループだけでなく、話し合いをしたグループの人たちからも感想を聞くようにする。また、そばにいた先生からも感想を伺うようにする。</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">話</span> 話がそれないように発言したり、賛成や反対の立場をはっきりさせて意見を言ったりしている。また、観察したことを振り返りで伝えようとしている。 （発言・観察メモ）</p> <p>担任が目当てに照らして、うまく話し合いを進めていた人を数人紹介し、自信をもつようにする。</p>

評価規準

(1) 題材の評価規準

関心・意欲・態度	話す・聞く力
<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いに進んで参加しようとしたり、友達の話合いの様子に関心をもって聞こうとしたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>よりよい意見にまとめるために、互いの考えの相違点や共通点を考えながら進んで話し合っている。</li> </ul>

(2) 学習活動における具体的評価規準

次	主な学習活動	関 意 態	話 す ・ 聞 く 力	評価規準
1	教科書の話合いの例を基に、意見を出すときの注意点をまとめる。 CD 1 の話し合いの例を基に、話し合いを進行するときの注意点をまとめる。 CD 2 の話し合いの例を基に、話し合いでよいと思ったことや直したらよいと思ったところをメモし、発表する。			<ul style="list-style-type: none"> <li>意見を出す人はどんなことに気をつけたらよいか理解している。(観察・発言・メモ)</li> <li>進行係がどんなことに気をつけて進行したらよいか理解している。(観察・発言・メモ)</li> </ul>
2	話し合いの目当てや役割を決め、話し合いを交互に行う。また、振り返りの話し合いを行う。 今までの話し合いを振り返り、よりよい話し合いについて確かめる。			<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いに進んで参加しようとしたり、友達の話合いの様子に関心をもって聞こうとしたりしている。(観察・発言・メモ)</li> <li>話がそれないように発言したり、出た意見を整理したりし、合意点を探りながら話し合いに参加している。(観察・発言)</li> </ul>

## 7 事後研修会で話し合われたこと

### (1) 成果(仮説2について)

- ・ グループで話し合いを進めるうえで、進行カードが有効だった。司会に不慣れな子供もそれを手がかりにして自信をもって進行することができた。また、少人数でも挙手して意見を述べ、話し合いのルールを意識することができた。
- ・ 学習カードに自分の意見とその理由を事前に書いておくことで、どの子供も自分の考えをはっきりさせて話し合いに臨むことができた。
- ・ 話し合いグループの様子を観察グループがメモを取りながら聞き、気付いたことを発表することで、次の話し合いにつながる相互評価を行うことができた。



本時の目当てや話し合いの仕方の確認



話し合いグループと、それを見る観察グループ

### (2) 今後の課題(仮説2について)

- ・ 子供がより主体的に話し合いを進行できるように、進行カードをいっそう工夫していきたい。例えば、空白の部分の設定や場面に応じた言葉の選択などが考えられる。進行の行き詰まりを事前に予想して、指導者は適切なアドバイスを考えておきたい。
- ・ 次学年での活躍を意識し、意欲を高めるために、上学年の話し合いを見るなどの手だてが考えられる。